

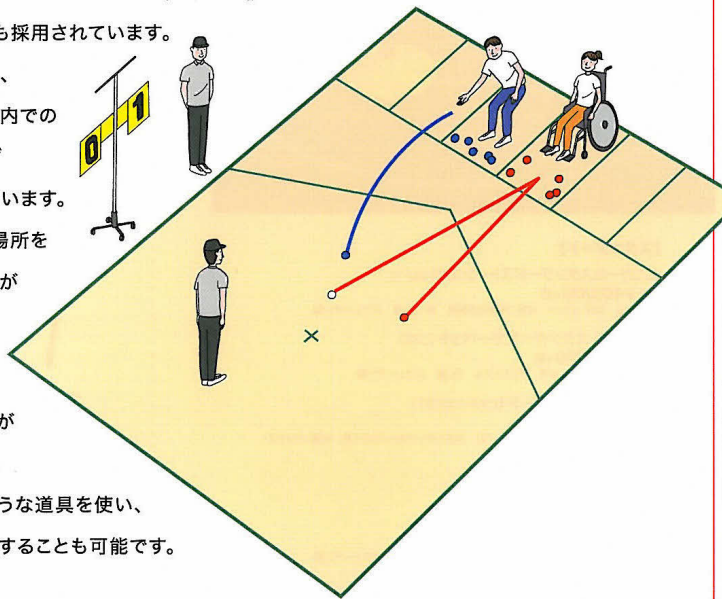
ポッチャ

『いつでも』『どこでも』手軽にプレイ!!

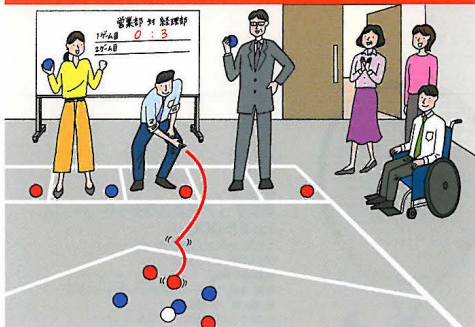
ポッチャはヨーロッパで生まれ、学校・スポーツクラブ・高齢者施設など幅広い年齢層に親しまれるようになり、今では世界選手権をはじめパラリンピック競技種目にも採用されています。

日本国内でも人気は広まり、学校・福祉施設や民間企業内での親睦など“老若男女”問わず幅広い年齢層に親しまれています。屋内はもちろん屋外でも、場所を選ばず誰でも手軽にプレイが楽しめるスポーツです。

自由にボールを投げることができない障がい者の方でも“補助具”という滑り台のような道具を使い、介助者とペアになって参加することも可能です。

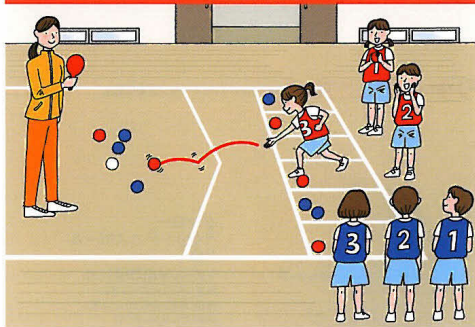


オフィスでポッチャ



障がいを持った方とも楽しく遊ぶので、オフィスでレクリエーションとして導入する会社も多く、各地で大会なども開かれています。

学校でポッチャ

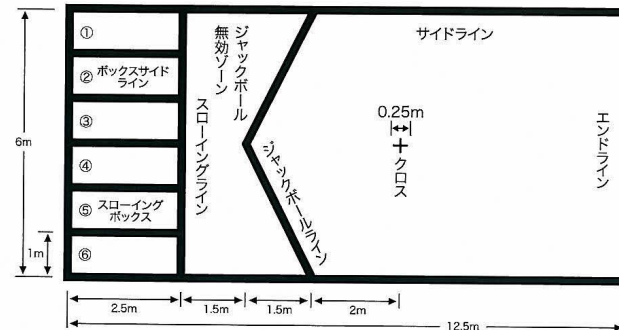


授業や学校交流の一環として取り入れる学校も増えています。

※イラストはイメージです。

コートレイアウト

社団法人
日本ユニバーサルポッチャ連盟より



スローイングボックス

選手が投球する位置はあらかじめ決められています。

【個人戦】赤が③、青が④ 【ペア戦】赤が②と④、青が③と⑤ 【チーム戦】赤が①と③と⑤ 青が②と④と⑥

ルール

① 2チームにわかれ、先攻側を赤ボールとし、後攻側を青ボールとします。

② 先攻側（赤ボール）がジャックボール（白ボール）を投げてゲーム開始。ジャックボールラインを越えられなかったり、サイドラインやエンドラインを越えてしまうと反則となり、相手チームがジャックボールを投げることになります。ジャックボールが規定エリアに入るまでこれが繰り返されます。

③ ジャックボールを投じた人がそのまま続けて自分のボールを投げます。

④ 次に後攻側が、ボールを投げます。

⑤ 次からは、ジャックボールに遠い方が常に投げ続けます。

⑥ 先攻後攻どちらも全てのボールを投げ終えて、1エンド終了となります。エンド終了時、ジャックボールが一番近いボールを投じたチームが勝ちとなります。相手チームの一番ジャックボールに近いボールよりも、味方チームのジャックボールに近いボールが1個につき1点と計算します。



この場合、青の方がジャックボールから遠いため、3投目は青チームの投球となります。



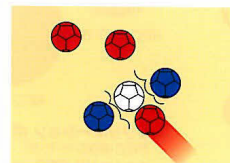
一番近い青よりも赤の方が2個ジャックボールに近いので、この場合は赤チームが2点獲得します。

公式戦では個人戦とペア戦は4エンド、チーム戦は6エンドで試合終了です。合計得点の高いチームが勝利となります。

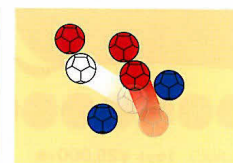
ポッチャの逆転術



この段階で青が2点

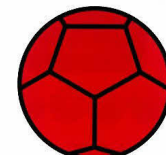


赤がジャックボールを
めがけてぶつける



一挙に赤が3点獲得

ボールの特徴



表面の縫い目により
独特の転がり方をします